

4 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

法人名

園名

育生会

こばとこども園

まとめ

全体平均

4.77

第2章第2節 乳児期の園児の保育	一人ひとりの発達に合った生活リズムの中で安心感を持って心地よく過ごすことが出来ている。手作りおもちゃを使用して年齢ごとに様々な経験をするように関わった。新入園児の保護者には入園後一ヶ月程度で面談を実施する等、乳児期の園児の保育の内容を伝えて行く必要性を感じる。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	子どもの発達に合わせて、一人ひとりに寄り添い、様々な遊びを提供していた。また、段階を踏みながら、子どもが自分を発揮できる場面を多く作っていた。遊具の入れ替えの仕方や空間の使い方をさらに工夫し、子どもが自由に選択することができる機会を増やして行けると良い。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	昨年度の反省から、保護者に、満3歳以上の園児の教育及び保育について意図を伝えることを意識した。一人ひとりの自我の育ちを支えながら集団としての活動の充実を図った。自我の育ちについては、自分で考え決定できる機会を保証しながら意見の衝突に対応する力を養うように関わった。集団としての活動の充実については、各領域でふさわしい経験と学びを生み出すために、共感や思いやりのある行動が出来るように援助することが必要である。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	一人ひとりの発育及び発達状態や健康状態について職員間の協力のもと、適切な判断に基づく保健的な対応を行ったが、途中入園児の個別対応・国籍や文化の違いの理解・性差については、一歩進んだ配慮が必要だ。特に新入園児に対して体調の報告の仕方など工夫が必要でマニュアルの整備について考えたい。
第3章 健康及び安全	一人ひとりの状況を把握し全職員がそれぞれの専門性を生かしながら、組織として園児の安全安心を考え進めた。健康支援については、職員間の連携が不十分な場面があった。食育については、コロナ禍で食育活動の経験不足が心配であったが徐々に回復する今後、活動内容を広げて行きたい。災害への備えについては、新しい避難経路の見直しが出来ていないことが課題である。また、今後は引き渡し訓練を行っていきたい。
第4章 子育ての支援	園児の子育ての支援は、保護者アンケートを通して出てくる課題に対して謙虚に受け止めながら改善していきたい。地域における子育てで家庭の保護者に対する支援は、ニーズを察知しながら今後も後退せず続けて行きたい。全ての保護者に対して、保護者の気持ちを受容し、保護者の自己決定を尊重する関わりが重要であると感じる。
第5章 職員の資質向上	毎日の保育内容のふりかえり、毎月の保育内容のふりかえり、年度の自己評価などで職員同士が話し合いを持つことはチーム保育においては必須である。その職員同士の話し合いが資質向上の鍵となることを職員が気付けるように体制を固めたい。そのために職場内研修や外部研修の受講、アウトプットの大切さにも気付けるように研修を計画したい。
総合	昨年度の自己評価の全体平均は4.40であった。今年度は、保護者アンケートや自己評価で足りていない部分を各職員が意識して職務を行ったことが、良い結果に繋がったと思う。各職員がチームで良い結果を出すためには、日々の保育実践を通じて、必要な知識や技術の習得、維持及び向上を図るとともに、各チームの課題への共通理解や協働性を高めることが必要である。そのために普段からチーム内で良好なコミュニケーションを持ち、主体的に学び合う姿勢を大事にしたい。また、そのための環境が整えられるよう、職種の違いの職員間の連携が図られるよう、園全体の体制も改善したい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	5.00
「3歳未満児保育」	32	4.85
「3歳以上児保育」	53	4.57
「教育保育の配慮事項」	16	4.94
「健康・安全」	28	4.76
「子育ての支援」	16	5.00
「職員の資質向上」	9	4.56
計	169	4.77

データグラフ

